

北海道花き振興協議会（北海道）

協議会構成団体：北海道花き生産連合会、北海道鉢花生産組合、北海道ばら研究会、ホクレン農業協同組合連合会、北海道農業協同組合中央会、北海道芝生生産者協同組合連合会、(株)札幌花き地方卸売市場、日本花き卸売市場協会北海道支所、札幌花き園芸(株)、はまなす花き(株)、北海道植物(株)、(一社)全国花卸協会東北・北海道ブロック札幌支部、北海道生花商協同組合、北海道フラワーガーデン協会、北海道園芸商同友会、(一社)日本ハンギングバスケット協会北海道支部、北海道いけ花連盟、北海道教育庁、北海道

対象品目

切り花：スターチス、カーネーション、ゆり、ばら、トルコギキョウ、アルストロメリア、キクなど
鉢もの：シクラメン、ポインセチアなど
花壇用苗もの：ペコニア、ゼラニウム、カリブラコア、コリウス、ジニアなど



< 取組内容 >

1. 花き流通の効率化等の取組

- ・「物流の2024年問題」に起因した労働時間の短縮に向けて、混載輸送時のカーネーションのエチレングスによる影響の検証をした。
- ・流通コストの低減に向けて、ユリを対象とした水質改善アイテムの活用による日持ち効果を検証した。
- ・出荷ロスの低減及び需要期に対応した出荷の実現に向けて、ユリの輸送形態や冷蔵時間による日持ち効果の実証をした。

3. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

- ・将来の花きの消費を担う子どもたちや若い世代の花きに対する興味の醸成や購入意欲の向上を目的に、小学校や幼稚園などにおける花育体験を実施した。

4. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

- ・近年の気象変動による高温や燃料価格の高騰への対策として、ハウスの片側開口部が広くて熱がこもりにくい「片屋根単管ハウス」での気温・耐候性の実証、地下水熱交換器を活用したハウス内での鉢花生産における夏期間の冷却効果及び冬期間の燃料削減効果を確認する実証を実施した。

< 取組の成果 >

- ・エチレン感受性の高いカーネーションにおいて、縦積み比べて横積みの方が日持ちが長く、エチレンとの距離が近いほど影響を受けやすい傾向を確認。STS処理を確実にすることで、混載輸送しても鑑賞価値を失いにくい。
- ・ユリの前処理の際にAgR水を110日連続使用しても水道水（20～30日おきに交換）と同様の日持ち効果を確保することが可能であり、出荷前の作業効率及び資源の有効活用が期待。
- ・市場集荷後のユリを「無貯蔵」「貯蔵2日」「貯蔵4日」（貯蔵は5～6℃で冷蔵）で箱を開封し常温管理した際、貯蔵によるストレスを受けても1週間近く鑑賞価値を失わないことを確認。



図：貯蔵条件ごとの平均日持ち日数（ユリ）

- ・「家族に贈ろう一緒に育てよう」の取組において、札幌市内の小学校4校890人の児童が北海道産の花苗を使用した寄せ植え体験に参加し、実施後における家庭へのアンケートでは、回答児童の69%、回答保護者の47%が「花への興味が増加した」と回答。また、回答家庭の98%が「体験参加前後での家庭での花き購入頻度が増加若しくは現状維持」と回答するなど、花きへの興味の向上や維持継続が図ることができた。



写真左：寄せ植え体験風景

写真右：児童が作成した寄せ植え

- ・片屋根単管ハウスにおいては、片側の広い開口部を開くことにより、慣行区と比較し最大4.9℃低い現状を作り出した（※R6.7.30のデータ）。また、冬期間は広い開口部から太陽光が降り注ぐことで、ハウス内の温度上昇により慣行区よりも無積雪時間を継続。
- ・地下水熱交換器においては、慣行区と比較して夏期で2～3℃の温度下落を確認し、鉢花への高温による負担が軽減。冬期間は慣行区と比較し灯油使用量が減少したものの、地下水温度により効果が左右される課題が残った。



写真：片屋根単管ハウス

< 今後の取組予定 >

- ・トラック積載率の向上及び運賃コストの削減に向け、輸送温度帯が相違する「切り花」「鉢花」の混載輸送における適正温度帯などの検証を行う。
- ・花き出荷量の増加及び防除コストの削減に向け、カーネーション及びマムでの病害虫抑制用UV-Bライト使用による高温下のハダニやうどんこ病の抑制効果の検証を行う。
- ・花育体験を通じて、将来の花きの消費を担う子どもたちやその保護者を対象に花きのある日常を提案し、家庭での花きの購入頻度や金額の変化などについて検証する。